

平成 21 年度老人保健事業  
推進費等補助金による  
助 成 事 業

平成21年度 老人保健健康増進等補助事業報告書

# 地域住民連携による 認知症・介護予防サービス企画支援に関する 研究報告書

平成 22 年 3 月



社会福祉法人東北福祉会  
認知症介護研究・研修仙台センター

## はじめに

現在、わが国では団塊の世代が75歳に到達する2025年に向けて地域包括ケアに向けた取り組みが始まっている。地域包括ケア研究会が2008年にまとめた報告書において示された地域包括ケアシステムの定義の案として、「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制」としている。そして、「その際、地域包括ケア圏域については、おおむね30分以内に駆けつけられる圏域を理想的な圏域として定義し、具体的には、中学校区を基本とすることである。」としている。つまり、サービスを連携、拡充することで既存の日常生活圏域で長く住み続けられることが理想であるとしている。さらに報告書の中では、地域包括ケアシステム確立の前提として、自助、互助、共助、公助の役割分担の確立が必要であると述べられている。

こうした視点では、特に目に見えずサービスとして成り立ちにくい、自助、互助、共助つまり、「助け合い」や「お互い様」といったこれまで地縁・血縁から生成された伝統的相互扶助を明らかにしなければ役割の明確化が難しい。

本研究では、地域包括ケアで求められる、地域包括支援センターの役割、地域住民の役割そして、それぞれの連携について3つの研究グループで検討を進めてきた。

具体的には、地域包括支援センターの地域住民への積極的な働きかけの実態と課題の整理、地域特性による介護予防効果の比較、非参加要因の検討である。そして本研究の中で、こうした整理に役立つ理論としてソーシャルキャピタルの概念の地域における認知症予防・介護予防への活用を検討した。

ソーシャルキャピタルの概念は近年各分野で注目されている地域の力を理解するために用いられている考え方であり、この視点が地域包括ケアの実現に向けた新たな視座を与えてくれるものである。

この研究の成果が、地域を対象として働く、地域包括支援センター等の職員の皆様の活動の支援、そして地域住民の健康な日常生活の支援につながれば幸いである。

認知症介護研究・研修仙台センター

センター長 加藤 伸司

平成21年老人保健健康増進等事業  
地域住民連携による認知症・介護予防サービス企画支援に関する研究報告書

目次

研究体制

はじめに 加藤伸司

第1章 研究概要 ..... 1

1. 研究全体の目的
2. 各研究の概要
3. 研究の成果と総括

(加藤伸司 阿部哲也 矢吹知之 吉川悠貴)

第2章 研究1 地域包括支援センター業務と住民連携の課題 ..... 6

1. 地域包括支援センターの現状と課題
2. 地域包括支援センターの活動事例から見た課題と現状

(土岐浩一郎 福嶋美奈子)

第3章 地域包括支援センター業務評価と住民連携にかかわるアウトリーチ ..... 18

1. 調査の目的
2. 方法
3. 結果と考察
4. 地域包括支援センターにおける認知症・介護予防サービス支援の方向性

(小野寺敦志 久松信夫)

第4章 研究2 住民連携・住民参加による認知症・介護予防地域活動の効果 ..... 47

1. 目的
2. 気仙沼市大島地区・仙台市国見地区比較研究
3. 地域包括支援センターと住民連携に向けた実証研究

(矢吹知之 山本洋史 二宮恭子)

第5章 研究3 ソーシャルキャピタルと地域連携支援 ..... 61

1. 地域の力とまちづくり・人づくり
2. ソーシャルキャピタルをつくる
3. ソーシャルキャピタルをどう活かすのか
4. 地域のソーシャルキャピタルを育む
5. わが国におけるソーシャルキャピタル概念の広がりとその背景
6. ソーシャルキャピタル概念活用の実践事例
7. ソーシャルキャピタルを育てた3つのポイント
8. まとめ

(高橋満 佐藤修 矢吹知之)

第6章 地域包括支援センターにおけるソーシャルキャピタル概念の活用 ..... 85

1. 地域包括支援センターにおけるソーシャルキャピタル醸成貢献自己評価指標の開発
2. 地域包括支援センターを対象とした地域連携支援モデル説明会の実施
3. 地域包括ケアとソーシャルキャピタル
4. 地域包括支援センターの業務へのソーシャルキャピタル概念活用の有用性と限界

(矢吹知之)

資料 調査票